岩手県 軽米町議会

議会だより かるまい

No.232
令和5年1月25日発行

今回の表紙は
ハロウィンパーティー

10月31日に晴山保育園でハロウィンパーティーが開催されました。ハロウィンの仮装をした子ども達の姿がとても可愛らしく盛り上がりました。またミル・みるハウスに行きお菓子をたくさんもらい子ども達はご機嫌でした。

主な内容

☞ 特集〔12月定例会のポイント〕

定年引き上げ制度 2

☞ 12月定例会 12月定例会の概要 5

☞ 12月定例会 一般質問に7人登壇 6

☞ インタビュー「かるまい町に住んでみて」 16

引き上げ善を図る

12月定例会 ここがPoint

60歳を境に適用される制度

① 現行60歳の定年を令和5年4月から2年に1歳ずつ引き上げ、令和13年4月に65歳となる。

② 管理職の職員は、原則60歳を役職定年年齢として管理職以外の職に降任する管理監督職勤務上限年齢制度を導入する。

③ 60歳を超えた職員の給料月額は、当分の間は60歳前の7割水準に設定する。

④ 定年前に退職する場合でも、当分の間は定年退職と同様に退職手当を算定する。

⑤ 定年前に退職する場合は、希望により短時間勤務の職に採用することができる定年前再任用短時間勤務制度を導入する。

⑥ 定年年齢の段階的な引き上げ期間中は、定年から65歳までの間の経過措置として暫定再任用制度を導入する。

役場庁舎1階窓口

全議案を全員賛成で可決

12月定例会（第35回定例会）は12月5日から15日までの11日間の会期で開かれ、補正予算6件のほか、提案された議案20件すべてを全員賛成で可決しました。職員の定年等に関する条例の一部改正と消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正の内容を紹介します。

職員の定年６５歳へ
消防団員の処遇の改

消防団出初式

ぎかいの視点

職場の士気高揚が課題

高齢化に伴い、町職員定年が 65 歳、給料も７割に減り、課長は降任となる。社会情勢を反映しての改正だが、職場の士気高揚が課題となるのではないか。職場環境の良さが職員のやる気につながる。きめ細かな人事の配慮を願う。

消防団員充足率確保へ

町の消防団員は 378 人、充足率は 75％である。団員の処遇改善策として、報酬アップと業務別報酬の新設が団員不足解決の一助になることを期待したい。

＜消防団員の年額報酬＞

	改正前	改正後
団長	150,000 円	160,000 円
副団長	100,000 円	110,700 円
本部長	93,000 円	94,300 円
本部付部長	50,000 円	61,100 円
分団長	78,000 円	88,000 円
副分団長	58,000 円	68,000 円
部長	50,000 円	61,100 円
班長	29,000 円	41,200 円
団員	24,000 円	36,500 円

＜消防団員の業務別報酬＞

出動（１回）	４時間以内　2,500 円
	４時間を超え７時間 45 分まで 4,000 円
	７時間 45 分を超えたとき 8,000 円
訓練及び警戒（１回）	４時間以内　2,500 円
	４時間を超えたとき　5,000 円

補正予算

一般会計予算を **1億3042万円**増額

農業資材価格高騰等対策支援金

負担金 700 万円

新型コロナウイルス感染症や国際情勢の変化に伴う価格高騰の影響を受けた農業者に対して、経営安定を図るため支援金を交付する。

問　支援金の増額補正は申請件数が当初予定していたより多かったからか。

答　当初5000万円の予算を計上していたが畜産業の方から、上限である30万円の交付申請が多く予算に不足が生じためである。

光熱水費

役場庁舎 451 万円

町内小学校 792 万円

原油価格高騰などに伴う役場庁舎内の電気料金の値上げを補正するものである。

問　他の施設でも光熱水費が増額となっているが、電気料金の値上げ幅はどのくらいか。

答　各施設とも電気料金が値上げとなっており、値上げ幅は2～3割程度である。

かるまい文化交流センター施設備品等購入費

備品購入費 8,378 万円

施設を有効活用するために備品を整備する。

問　多目的ホールの広さはどのくらいなのか。また可動式客席は何席あるのか。

答　ホールの広さは332㎡である。また可動式客席が300席、それに加えて100席を用意して全体で400席。

農環センターよりも一回りほど広く400人程度の収容人数である。

福祉灯油費等給付費

扶助費 1,104 万円

生活困窮世帯の冬期間の生活支援を目的として福祉灯油費給付事業を実施する。

問　福祉灯油の対象世帯はどのくらいか。

答　町民税非課税の高齢者、障がい者等や、ひとり親、生活保護世帯の1380世帯が対象である。

第34回臨時会　新図書館へ電動ロールスクリーン等導入

小軽米保育園発表会

第34回臨時会は10月31日に開催され「議案第1号　財産の取得に関し議決を求めることについて」及び「議案第2号　令和4年度軽米町一般会計補正予算（第6号）」が提案されました。提案された議案2件すべてを可決しました。

いわて子育て世帯臨時特別支援金給付事業　2,199 万円

・原油価格・物価高騰の影響を受けている子育て世帯の負担軽減を図る。

電動ロールスクリーン等一式導入　429 万円

・かるまい文化交流センターの図書館を整備するため導入。

中小企業に対するエネルギー価格高騰対策支援事業　3,025 万円

・エネルギー価格高騰の影響を受けている事業者を対象に事業の継続を支える。

≪12月定例会≫

採決結果を紹介

番号等	案件内容	本会議の採決結果
報告①	専決処分事項の報告〔6月29日に国道340号を走行中に発生したゴミ収集車による物損事故に係る損害賠償〕	―
議案①	職員の定年等に関する条例の一部改正〔地方公務員法の改正に伴う職員の定年引上げに伴い、所要の改正をするもの〕	可決（全員賛成）
議案②	軽米町職員の懲戒の手続及び効果に関する条例の一部改正〔地方公務員法の改正に伴い、所要の改正をするもの〕	
議案③	軽米町公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部改正〔地方公務員法の改正に伴い、所要の改正をするもの〕	
議案④	軽米町職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部改正〔地方公務員法の改正に伴い、所要の改正をするもの〕	
議案⑤	職員の育児休業等に関する条例の一部改正〔地方公務員法の改正に伴い、所要の改正をするもの〕	
議案⑥	人事行政の運営等の状況の公表に関する条例の一部改正〔地方公務員法の改正に伴い、所要の改正をするもの〕	
議案⑦	一般職の職員の給与に関する条例の一部改正〔地方公務員法の改正に伴う職員の定年引上げに伴い、所要の改正をするもの〕	
議案⑧	職員の再任用に関する条例を廃止する条例〔地方公務員法の改正に伴い現行の再任用制度が廃止となることから、条例を廃止するもの〕	
議案⑨	職員の高齢者部分休業に関する条例〔地方公務員法の改正に伴う職員の定年引上げに伴い、職員の高齢者部分休業の導入に関し必要な事項を定めるもの〕	
議案⑩	軽米町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例の一部改正〔軽米町消防団員の処遇の改善を図るため、所要の改正をするもの〕	
議案⑪	令和4年度軽米町一般会計補正予算（第7号）〔1億1512万9千円を増額し、総額85億2954万6千円〕	
議案⑫	令和4年度軽米町下水道事業特別会計補正予算（第2号）〔50万円を増額し、総額1億1061万1千円〕	
議案⑬	令和4年度軽米町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）〔13万8千円を増額し、総額1億2405万3千円〕	
議案⑭	一般職の職員の給与に関する条例の一部改正〔岩手県人事委員会の勧告に伴い職員の給与改定をするもの〕	
議案⑮	特別職の職員の給与並びに旅費及び費用弁償に関する条例の一部改正〔岩手県人事委員会の勧告に伴い特別職の給与改定をするもの〕	
議案⑯	議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正〔岩手県人事委員会の勧告に伴い特別職の報酬改定をするもの〕	
議案⑰	会計年度任用職員の給与等に関する条例の一部改正〔諸般の情勢に伴い給与改定をするもの〕	
議案⑱	令和4年度軽米町一般会計補正予算（第8号）〔1529万3千円を増額し、総額85億4483万9千円〕	
議案⑲	令和4年度軽米町下水道事業特別会計補正予算（第3号）〔5万5千円を増額し、総額1億1066万6千円〕	
議案⑳	令和4年度軽米町介護保険特別会計補正予算（第2号）〔9万2千円を増額し、総額2728万6千円〕	

一般質問とは
- 定例会に限り、町政全般に関して質問できます
- 質問項目はあらかじめ事前の通告が必要です
- 質問者の順番は通告した順番で行われます
- 同一項目についての再質問は２回までできます
- 時間の制限はありません

第35回定例会　7人が登壇

一般質問

かみやま　まこと
上山　誠
（7ページ）

- 次期町長選挙について

たむら
田村　せつ
（8ページ）

- 軽高生に対する支援
- 冬灯りイルミネーションの点灯

なかむら　まさし
中村　正志
（9ページ）

- 現状の行政組織の見直し
- 町民総参加のスポーツ振興による健康体力づくりの推進

にしだて　とくまつ
西舘　徳松
（10ページ）

- 帰属法について

ちゃや　たかし
茶屋　隆
（11ページ）

- 人口減少について
- 町長選について

やまもと　ゆきお
山本　幸男
（12ページ）

- 軽米町が岩手県を提訴した裁判のその後の動き
- 町長６選出馬の新聞報道

えさしか　しずこ
江刺家　静子
（13ページ）

- 教育費の保護者負担軽減
- 高齢者ドライバーや町民の安全向上対策
- かるまい交流駅（仮称）について

◀ 町議会ＨＰ
QR コード

掲載されている質問・回答は要約されています。全文は町議会ホームページにて公開しておりますので、ご覧ください。

次期町長選挙

問 山本町政総括を伺う

町長

町民が健康で安心して暮らせる町づくりに向けた政策を推進

問 次期町長選挙について山本町長の意向を伺う。

【町長】 新たな計画に基づく政策の具現化や再生可能エネルギーの推進による町づくりなど、道半ばにある政策もある。これらの政策を着実に推進し、将来に向けた持続可能な町づくりを進めながら、町民の更なる福祉向上を図ることが私の責任ある行動であるため、去る11月25日に次期町長選挙へ立候補する決意を表明した。

問 山本町政5期の総括を伺う。

【町長】 1点目は圃場・農道整備、農産物生産の省力化と機械導入、雑穀生産施設整備、資源循環型農業の確立、6次産業化、新商品開発、かるまいブランド認証制度の情報発信など振興を図った。

2点目は子育て世代包括支援センター「めごかる」による妊娠、出産、子育ての支援体制や、良い環境で保育・教育を受けるため保育園、小学校の新築やICT教育の充実にも取り組んだ。また18歳までの医療費の無料化、保育料の完全無料化、学校給食費の無料化で負担軽減を進めた。

3点目はいちい荘の新築整備支援、高齢者生活支援の体制充実、健康寿命の延伸などの施策を展開した。

4点目は鶏糞をバイオマス資源とした発電施設の誘致やメガソーラー、風力発電施設、空き校舎活用によるレタス栽培工場、養鶏団地の誘致などに取り組んだ。また地元就職を促進するため、新規求職者等地域雇用奨励金制度を制定し、約141名の新規雇用が図られた。

5点目はにぎわい創出のため「かるまい文化交流センター」の整備を進め令和5年7月に完成予定。またプレミアム付き商品券を発行するなど商店街の支援も行った。行政区活動交付金、地域活動支援事業費補助金を創設し、各地域で自主的・主体的に課題解決に取り組む活動を支援した。また火葬場の新設、道路、橋りょうの整備、町民バスの運行などの生活環境整備も進めた。

6点目は地域のコミュニティ施設を新築整備して地域の交流拠点、災害時における避難所の機能も果たす施設整備を進めてきた。

7点目は職員数の削減、特別職の報酬削減、百人委員会の設置、町政意見箱の設置、行政組織を見直し健全な行政運営に取り組んだ。

令和3年度から学校給食費無料化

軽高生に対する支援

問 保護者の負担軽減策は

町長 生徒の関心が高い魅力づくりに努める

【問】軽高生の今年度の入学者は38人であり、2年連続で40人を下回ると1クラス減になる。保護者の負担軽減を図るため入学準備に要する経費に助成をしてほしい。

【町長】軽米高校教育振興会と連携して給食の提供、通学費、部活動支援、英語検定の補助など負担軽減策を実施してきた。入学者は定員80人に対し令和3年度は47人、令和4年度は38人となり、1学年2クラス維持が難しい状況となっている。また軽米中学校からの入学者数も令和3年度44人、令和4年度34人となっており、約3割から4割が町外の高校へ進学している状況も影響している。保護者の負担軽減策のみでは入学者数の増加は見込まれないことから、近隣市町村からの入学者を増やす取り組みや、生徒が関心の高い学業面や部活動といった部分を町と高校で一体となって進めていくことが重要である。

軽米高校文化祭

冬灯りイルミネーションの点灯

問 継続したイベント開催を

町長 冬の行事として継続開催に努める

【問】交流人口の拡大に繋がるため今後も継続してイルミネーションを点灯して欲しい。

【町長】新型コロナウイルス感染症の影響により、様々なイベントを中止せざるを得ない中、「冬灯りイルミネーション」については、規模を縮小しながらも継続開催してきた。今年の点灯式には約300人が来場し、軽米町の冬のイベントとして多くの皆様に楽しんでいただいている。またフォトコンテストは、町外の方からも多くの応募があり、町の交流人口拡大に繋がっているものである。

【問】イルミネーションの電飾は消耗品であり、毎年更新して欲しい。

【町長】毎年予算の範囲内で、不具合の生じた個所の更新や補充を行っており、今後について実行委員会と連携を図りながら、冬のイベントとして継続開催に努めたい。

冬灯りイルミネーション

現状の行政組織の見直し

問 町長の福祉向上策が進む組織か

町長 副町長を置き機構改革も進める

【問】副町長の空席が続いている中で職員の不祥事や休職の公務災害認定、交流駅建設に係る医療廃棄物出土による県への提訴など現職課長への業務負担が重い状況で、町民の福祉向上策が進んでいるのか。

【町長】細部の業務・予算等事務執行の管理は、所管部署によるところが多く、影響はないものと考えている。職員一人ひとりのコンプライアンスの徹底を図りながら、公務員の本務である町民の福祉向上のため現行体制で対応していきたい。

【問】再生可能エネルギー推進室は総務課総括課長以外の正職員はゼロである。重要施策である再生可能エネルギー推進業務が進むのか。

【町長】再生可能エネルギー推進室に配置している再任用職員、会計年度任用職員とも長年にわたり当該業務に従事されてきたベテラン職員のため、心配はないものと考えている。脱炭素社会の実現のため、政策推進に高度な専門的知識が必要となった場合や新たな課題が発生した場合には職員の再配置も念頭に置きながら、外部への委託も含めて効率的な業務を推進していきたい。

【問】行政事務をスピーディにするための行政組織が必要ではないか。機構改革の考え方を伺う。

【町長】次には副町長を置いて、その副町長にこの機構改革も一つの命題として与えていきたいと考える。

町民総参加のスポーツ振興による健康体力づくりの推進

問 大幅な見直しが必要では

教育長 会議を重ねて検討したい

【問】町民総参加の町総合体育大会について各地区からの参加数が減少しているが、体育協会と協力して今後の開催を検討するべきではないか。

【教育長】軽米町総合体育大会代表者会議において、各チームの状況を確認したが、地域において参加に必要な選手を集めることが難しい状況である。町民体育祭検討会議を重ねながら、開催方法や内容について検討し、本町にあった町民体育祭並びに総合体育大会の在り方を考えたい。

【問】チャレンジデーを趣旨に沿って年間を通した町民参加のスポーツへの取り組みを行い、町総体とのタイアップを検討すべきではないか。

【教育長】運動の習慣化を図り、町民の健康増進・体力づくりのために、年一回の競技大会で終えるのではなく、年間を通した継続的なスポーツイベント展開が課題と考えられるため、総合体育大会とのタイアップなどを含めて検討したい。

チャレンジデー（ラジオ体操）

帰属法について

問 人・農地プラン策定の支障は

町長 農地が手放されることが懸念される

【問】人・農地プラン策定に支障を及ぼすことが想定されるが町としてどう対応するのか。

【町長】今回施行される帰属法によって、土地所有権の流動化が進むことにより、耕作条件の比較的優れた農地の集積・集約化について、進めやすくなる一方で当町のような中山間地域の農地の場合、耕作希望者がいない土地などは、多くの農地が手放されることも懸念される。なお、農業経営基盤強化促進法などの一部改正に伴い、人・農地プランが法定化され、「地域計画」として5年後、10年後に誰がどのように農用地を利用して、地域農業を進めていくかを地域の話し合いによって作成するものとされており、令和6年度末までに市町村が策定することとなっているため、農業委員会をはじめ、関係機関と連携して担い手への円滑な農地の集積を図っていく。

人・農地プラン策定見直しの話し合い

【問】「帰属法」の詳細を農業者へどのように周知するのか伺う。

【町長】令和3年4月に成立した「帰属法」は、相続等によって土地の所有権を取得した者が法務大臣の承認を受けて、その土地の所有権を手放して、国庫に帰属させることができる制度を創設するための法律である。また相続等によって望まない土地を取得した方の負担が増加して、土地を手放したいと考える方が増加していることなどの変化が、所有者不明の土地を発生させる要因になっており、土地の管理不全化を招いているとの指摘に起因していると言われている。地域計画の策定に係る地域の話し合いなどでの情報提供を行い、これからの地域農業をどのようにしていくか、農地をどのように守っていくのかについて農業委員会をはじめ、農業者の皆さんとともに知恵を絞って検討したい。

耕作放棄地

人口減少について

問 移住・定住の今後の取り組みは

町長 郷土愛を育む取り組みを検討する

【問】人口減少対策として移住者受け入れ等も考えたと思うが、過去5年間、どのような取り組みを行い、移住者は何人か。

【町長】県や近隣市町村等と連携した首都圏における移住イベントへの参加や地域おこし協力隊の募集のほか、首都圏から移住してきた人で、特定の要件を満たす人を対象とする移住支援金、若者や移住者が空き家バンクに登録された物件を購入する場合に、購入費用やリフォーム費用に対する補助金などの事業を行ってきた。移住支援策を活用して県外から転入してきた人数となるが、地域おこし協力隊2人と若者向け空き家住宅取得事業費補助金の利用者7人となっている。

【問】全国的に各市町村で移住・定住が見直されているが、軽米町として今後、どのようなことに重点を置いて取り組むか。

【町長】高校卒業後に進学や就職で一度軽米を離れた若者が、軽米に戻って生活したいと思えるように、雇用の場の創出をはじめ、高校生や大学生が町づくりに参画できる機会を用意するなど、町出身者が戻りたいと思える郷土愛を育む取り組みも検討したい。

雪谷川の風景

町長選について

問 町民のために何を行うか

町長 更なる福祉の向上を図る

尊坊ソーラー

【問】11月25日の岩手日報に「山本氏6選出馬へ（軽米町長選）」という見出しで掲載されたが、山本町長は町民のために何をやりたいか。

【町長】1点目は若者定住対策の推進、2点目は高齢者が安心して暮らせる町の実現、3点目は子育て支援日本一、4点目は再生可能エネルギーの推進、5点目は町民所得の向上推進、6点目は中心商店街の賑わい創出の6本柱とし、若者世代住宅の整備、高齢者の医療費等の負担軽減、子どもの遊び場の整備、再生可能エネルギー、バイオマス資源を活用した大規模園芸施設の誘致、「かるまい文化交流センター」を核とした中心商店街の賑わい創出を進めたい。

岩手県を提訴した裁判のその後の動き

問 和解への動きはあるか

町長 和解の働きかけは考えていない

【問】訴状内容を議員は知らないが、朗読することはできるか伺う。

【町長】訴状内容の朗読について7月6日、ご議決いただいた「損害賠償請求事件に係る訴えの提起に関する議案」の趣旨及びその内容について、当町の主張をより詳細に記載するとともに、主張の根拠となる証拠書類を付したもので議案の内容を逸脱するものではないため、訴状を朗読することは控えたい。

【問】和解への働きかけは行っているのか。

【町長】県との和解の可能性を否定するものではないが、費用負担に係る県の考え方は到底受け入れ難いために提訴しているものであり、県からの支援は現状では全く期待できず、司法の立場から判断していただくことが適切であると考えているため、町として和解を働きかけすることは現時点において考えていない。

かるまい文化交流センター工事

町長６選出馬の新聞報道

問 廃棄物事件は多選の弊害では

町長 司法で判断するため弊害ではない

【問】人口減少、商店街の活性化、かるまい交流駅（仮称）廃棄物事件は多選の弊害の一つではないか。

【町長】人口減少について関係者の意見を集約し、人口ビジョン・総合戦略を策定した。商店街の活性化についてもプレミアム付き商品券の発行をはじめ多くの事業を展開してきた。かるまい交流駅（仮称）の廃棄物の問題は司法の場で正当な判断を求めているものであり、多選の弊害にならないと考えている。

【問】６選出馬せずという選択肢はなかったのか。

【町長】道半ばにある政策を着実に推進し、持続可能な町づくりや町民の福祉の向上を図ることが責任ある行動だと考えている。

賑わう商店街

教育費の保護者負担軽減

問　保護者への支援を

町長　現在の支援内容を勘案の上検討したい

【問】子育て支援として、小学校入学祝金、小中学校入学時に夏冬運動着支給、メガネ購入補助、高校生の制服代を支給することを提案したい。

【町長】軽米高校教育振興会と連携して給食の提供、通学費、部活動支援、英語検定の補助など進めてきた。今回提案のあった各種支援制度の実施については、現在の支援内容等を総合的に勘案のうえ検討したい。

軽米高校クラスマッチ

町民の安全向上対策

問　急発進抑制装置の一部補助は

町長　今後の動向に注視して検討したい

【問】高齢者ドライバーのアクセルとブレーキの踏み間違いによる重大事故を未然に防ぐため、自動車に後付けする「急発進抑制装置」の設置費用の一部を補助してはどうか。

【町長】現時点において、国の性能認定を受けた「急発進抑制装置」を装着できる車両が限定されていることもあり補助制度の創設は緊急性と有効性について調査検証をしてから検討していきたい。

四つ葉マーク

かるまい交流駅（仮称）

問　工事の進捗状況は

町長　工程に影響する遅延は発生していない

【問】半導体不足等が報道されているが、工事の進捗状況はどうか。

【町長】半導体等の材料不足や全国的な需要増により建設資材、設備機器等の納期は通常より長くなっているが早期手配をしていたため工程に影響はない。

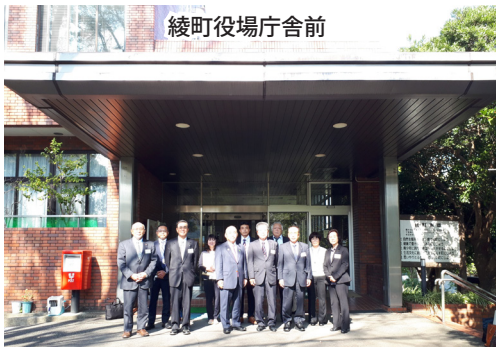
【問】医療廃棄物撤去等で訴えている裁判の状況と町長の責任について伺う。

【町長】現在の状況は12月8日に第1回、口頭弁論が開かれる予定。また県に当該損害の賠償を求めているものであり、責任の所在はあくまで撤去に応じない岩手県にあると考え、提訴している。

議員管外行政視察研修

宮崎県綾町

議員管外行政視察は、令和4年11月8日から11日までの4日間で宮崎県綾町と鹿児島県霧島市で研修を行いました。「移住・定住推進事業」、「自然生態系農業」をキーワードに研修しました。先進地の取り組みと参加議員の感想を合わせてレポートします。


綾町役場庁舎前

宮崎県綾町（あやちょう）
■人口 6,786 人　■面積 95.19㎢　■議員定数 10 人
■宮崎県中西部に位置する町で、東諸県郡に属する。「有機農業の町」、「照葉樹林都市」などをスローガンとする町おこしの成功例として知られ、自然の中での人間らしい生活を求める全国各地からの移住者が増加している。

綾町 HP ▶
QR コード

農業の町に誇りを

綾町は、町長と町民が一体となり、有機農業等を主体とした農業の町づくりに誇りを持ち、その町の誇りを移住政策に生かしていることは、大変素晴らしいと感じました。

〔中村 正志〕

町長がトップセールスマン

綾町は昭和 50 年代から有機農業に生産者（住民）と行政が一丸となって時の町長の力強いリーダーシップのもとに取り組み今では宮崎県で第 1 位の有機作物を生産する町に感動しました。

〔茶屋 隆〕

充実した子育て環境

綾町は人口が 6786 人で軽米と似通っていますが、街並みは都会的です。自然の中で子育てをしたいという人たちの為に働きやすいように、病児・病後児保育など子育て環境も充実しています。

〔田村 せつ〕

自然生態系農業

綾町は、安心できる農畜産業物の生産・流通を通じて、農村と都市との共生交流を深め自然生態系農業に取り組んで、食と農の在り方について生産者と消費者の絆をより一層深めていました。

〔西舘 徳松〕

鹿児島県霧島市

霧島市（明るい農村）視察

坂元のくろず壺畑情報館

鹿児島県霧島市（きりしまし）
■人口 122,926 人　■面積 603.18㎢　■議員定数 26 人
■鹿児島県本土の中央部にある市で、鹿児島市に次いで 2 番目の人口規模を有する市である。日本百名山の霧島山や、鹿児島神宮の初午祭、霧島温泉郷や日当山温泉、妙見温泉などの温泉で知られる観光地である。

霧島市 HP ▶
QR コード

大胆な施策の実施

軽米町として、なお一層の子育て環境の整備や小規模校（山村留学）での体験学習や他町村への通勤手当支給、高速料金負担等の思い切った施策が必要だと感じました。

〔舘坂 久人〕

雇用の確保が移住定住の一丁目一番地

おじゃんせ霧島移住定住推進室が移住体験研修事業を実施して温泉や食、観光地等の魅力を紹介し、移住定住につなげていました。優良企業が立地しており、働く場所が大切だと痛感しました。

〔松浦 満雄〕

移住・定住促進事業

取り組みに至った経緯、促進を図るための体制作り、具体的な事業内容、これまでの補助制度実績、今後の課題及び展開について等を精一杯取り組んでいる姿勢を強く感じてきました。

〔細谷地 多門〕

専門部署の設置

霧島市は中山間地域の過疎化と移住定住に対応するために専門部署を設置して取り組んでいると伺いました。軽米も専門部署の設置で積極的に問題に向き合う必要があると感じました。

〔上山 誠〕

次は　町民インタビュー　かるまい町に住んでみて

議会報編集常任委員会の活動報告

岩手県町村議会広報担当者研修会
□11月21日(月)から11月22日(火)まで
□花巻市　ホテル紅葉館

「住民に読まれ、伝わり議会の見える化へ～議会広報の基本と編集～」
一般社団法人埼玉県コミュニケーションセンター　芳野 政明 氏

広報担当者研修会

見出しの大切さ

議会広報の編集の際の注意点は、どうすれば町民が読んでくれるのか、見出しを見て何を書いてあるのか、すぐ解るように、見出しは大切である。見出しは10文字前後がベストとなっています。

〔委員長　田村 せつ〕

政策提言に努力

議会広報は、いかに議会での議論を町民に伝えるかが大切。町民に読んでいただくために、町民からの情報を集約し、町政監視とともに、政策提言に努力したいです。

〔副委員長　中村 正志〕

研修の重要性

県内全町村が集まるのは全国で岩手県だけ、8町村のクリニックと講義が行われた。恒例の交流会で、今年も県下の担当者とコミュニケーションが取れ、各議会の活動の一部が分かりとても有意義でした。

〔委員　茶屋 隆〕

住民の声を取り入れ

事業がどのように話し合われて決定したのか議会の報告と、住民の声も記事に生かしたいです。また町に出かけてインタビュー等をして、住民参加で読まれる議会報にしたいです。

〔委員　江刺家 静子〕

町政調査会の活動報告

3年ぶり8回目
町民とスポーツ交流

今回で3年ぶり8回目を迎えた、町民と議員の交流を目的としたパークゴルフ大会を11月2日に開催しました。ハートフル・スポーツランドパークゴルフ場を会場に、参加者は61名とにぎわいました。初心者の方から経験者の方まで、多くの町民が参加して議員との交流を楽しみました。

表彰式

開会式

たくさんの参加者が見守る中でスタートした

4人1組で競い合った

かるまい町に住んでみて

町民インタビュー Vol.㉙

松田（まつだ） 梨恵（りえ） さん

釜石市出身 （下河南）

・親子でラッパ隊に参加

三男・陽樹（はるき） くん

縁があり軽米へ

軽米町で暮らすきっかけは？

義父が仕事でケガをして、働くことが難しくなったため、夫の実家である軽米町で暮らすことになりました。

たくさんの関わり

軽米町の印象は？

軽米町に来る前は、私にとっての知り合いは1人もおらず、土地感もないため不安でした。また田舎らしい豊かな自然が好きでしたが、近年ではソーラー建設のため町の外観がだいぶ変わってしまい残念です。町に住んでから12年が経ちましたがたくさんの人と関わることができて不安はなくなりました。

若者世代につなぐ

町がもっと住みよくなるためには何が必要と思いますか？

住みやすい町を目指すために、午後からでも通院できる個人の小児科医や子どもたちが集まれる場所の確保が大事だと感じています。軽米町では子どもがどんどん減少しており、町内の店が閉店ばかりしていて、商店街に人が歩いていないため活気がなくて寂しく感じています。これからを担っていく若者に、どうやって町内に住んでもらうのかを考えて、次の世代につないでほしいです。

募集しています

このコーナーの出演者を募集しています。主に町外から軽米町に来られた方で、町への提言、思いなどをお寄せください。自薦・他薦は問いません。議会事務局又はお近くの町議会議員までお問い合わせください。

かるまい議会だより

発行日　令和５年１月25日発行（No.232）
発行者　軽米町議会　議長　松浦　満雄
編　集　議会報編集常任委員会
〒028-6302　岩手県九戸郡軽米町大字軽米10-85
TEL 0195(46)2111 ／ FAX 0195(46)2335
ＵＲＬ　http://www.town.karumai.iwate.jp/

軽米町議会だよりはこちらから

議会報編集常任委員会
委員長　田村　せつ志
副委員長　中村　正志
委員　上山　誠
〃　江刺家静子
〃　山本　幸男（令和５年１月16日時点）
〃　茶屋　隆